

視聴覚研究部会

I 研究テーマ

「児童・生徒の生きる力を育むためのICTの活用」

II テーマ設定の理由

今日の情報化・国際化・個性化をめざす社会において、視聴覚機器は子どもたちの可能性を引き出すための活用が多くなされている。特に、めまぐるしく変化している社会環境においては、様々な情報手段を利用することによって、子どもたちのメディアリテラシーを高め、的確な情報を収集させる手助けとしての活用が期待できる。そして、教師自身が指導する立場において、どうやって使うのか、どのように使えるのかなど、適切な活用と工夫が必要となってくる。

そこで、各機器の特性を知り、児童・生徒の意欲を高めるために、どのように利用していくか、より効果的な利用ができるよう実践を通して研究していくことが大切であると考え、本テーマを設定した。

III 研究の経過と内容

1. 4月11日<部会総会>
 - ・組織編成，役員決定，テーマの決定，小テーマ設定
 - ・メディア活用班：「情報やメディアを生かした授業づくり」
 - ・コンテンツ作成班：「情報を活用した授業づくり」
2. 5月14日<春季全体集会>各班の研究計画・研究内容の話し合い
3. 6月18日<班別研究>
4. 7月31日<班別研究>
5. 8月16日<班別研究>
6. 9月 3日<班別研究>
7. 10月 1日<全体会>
 - ・班中間報告，教研レポート提案者決定
8. 11月 5日<班別研究>
 - ・教研報告，各班の研究のまとめ
 - ◇児童・生徒の生きる力を育むためのICTの活用
県教研代表者 羽田 梨花 先生（里垣小）
9. 1月21日<全体会>
 - ・研究のまとめ，研究の方向性

IV 研究の反省と課題

1. メディア活用班

(1) 反省

- NHKのデジタルコンテンツに絞って研究を進められたことが良かった。
- 「NHK for school」がだいぶ使いやすくなってきているので、それについて研究を行うことで、他の先生たちにも広めることができ良かった。
- デジタル教科書を使った実践（動画を活用したもの）も良かったかもしれない。
- 「どの先生でも使える」というコンセプトが良かった。組織研究のよさが生かされていた。
- 今年は「NHK for school」の番組をたくさん視聴できて、研究を深めることができ良かった。
- 毎回、やるべきことがはっきりしていて、次回へとつながっていったので、研究が深まったと思う。
- 少ない回数の中で各自の実践（計画）を持ち寄り、話し合っていくといった形式でよかった。
- テーマに沿って一人一実践という形で行えているのでよいと思う。
- 研究授業を行っていないと具体的な姿が見えてこない。

(2) 課題

- 「NHK for school」を、一人でも多くの先生方に活用していただけるよう働きかけを行っていく必要がある。
- 来年夏以降のPC入れ替えに合わせた実践も行っていけると良いだろう。
- タブレットの導入を視野に入れた研究を行っていくことも考えられるであろう。幅の広がった実践が可能になるだろうから、早期の導入が望まれる。
- 今年度の「NHK for school」を一つの柱としながら、他のメディアについての研究も考えていかなければならないだろう。
- 「NHK for school」を活用した実践を継続して行っていくならば、一覧表づくりもさらに充実していきたい。
- 「どのように使うか」といった活用方法について深めていきたい。
- 本年度の研究を単発にするか実践集の幅を広げるかのどちらかだと思うが、単発では効果が薄い気がするので、来年も精度を高めたり、時間的余裕をもって広めたりする活動をしていったらどうだろうか。
- 実践集を利用した授業を実際に行い、検証していく必要もあるのではないか。
- 研究授業を行っていないと具体的な姿が見えてこない。

2. コンテンツ作成活用班

(1) 反省

- 授業づくりに向けて、情報活用を広くとらえることができた。
- 収集したものを使って、伝えるものは何か。今後も授業づくりを柱として学習解決の場面向けて、有効な情報を活用できる授業づくりを進めていきたい。
- 班員の人数が少ない上に、学級担任の数が減っていることから、部員の一員として、今後どう授業の中で進めていくか、どう実践していくかを考慮、配慮しなければならない。

(2) 課題

- 情報の素材を精査しながら、指導計画の学年・教科・単元を考慮し、学習のどの場面に使えるかを判断していく必要がある。
- 児童側で、情報活用できる取材活動も含めて進めていきたい。
- 地域や学校の素材探しからはじめ、データ化に向けた教職員や児童の作成した情報のデジタル化を進め、広く活用できるようにする。

3. 全体の反省と課題

- 研究会自体はスムーズに運営されていた。
- 部会員の数が減少している。特に、今年度も中学校の先生が一人もいなかった。小中連携を考えると、ぜひ中学校の先生方にも所属していただき、研究を深めていきたい。
- 二つの班のテーマが似てきているので、それぞれの班の存在意識が薄れてきてしまわないよう配慮していかなければならない。